

「岩手 141 号」の第2回現地見学会を開催しました！

久慈地域の水稲生産者や関係者を対象に、水稲新品種「岩手 141 号」圃場の第2回現地見学会を8月29、30日に開催しました。見学は、久慈市（大川目町、宇部町）、洋野町（阿子木）、野田村（泉沢）に設置したモデル圃場4か所のほか、生育診断圃（洋野町宿戸）の、計5カ所で行い、参加者は計43名でした。

はじめに「岩手 141 号」の特性について、県北農業研究所から説明いただいた後、普及センターから「岩手 141 号」の生育状況や調査結果等を説明しました。また、モデル圃場の生産者から、これまでの生育や管理方法、期待などについてお話しいただきました。

参加者から、「籾が大きく収量が期待できそうだ」や「倒伏に強いので安心して育てられる」といった期待のほか、「いつ試食できるのか」「食味が気になる」などの声が聞かれました。「岩手 141 号」への関心の高まりを感じることができました。

刈取りは9月上旬から始まり、収穫を終えた生産者からは、後日「いわたっこに比べて、収量が多そう」などの感想をいただきました。

普及センターでは、「岩手 141 号」の食味を知ってもらうため、関係機関の協力を得て、水稲生産者等を対象とした試食会を11月下旬に開催する予定です。



ほ場見学の様子



刈取りの様子